

5 第5回「生物多様性Hyogo市民宣言を届けよう」

- 日 時：平成23年2月16日（水）15：00～17：30
- 場 所：神戸市勤労会館 多目的ホール
- コーディネーター：特定非営利活動法人こども環境活動支援協会監事 戸田 耿介氏
- アドバイザー：兵庫県立人と自然の博物館研究員 橋本 佳延氏
神戸市環境局環境評価共生推進室長 西谷 寛氏

■内 容：

15：00～15：20

挨拶、本日の予定説明、参加者紹介

15：20～15：30

Hyogo対話事業実施報告、市民宣言のPR状況、賛同メッセージ紹介

15：30～15：40 協会 来年度事業紹介

15：40～15：50 兵庫県 来年度事業紹介

15：50～16：00

人と自然の博物館 来年度事業紹介

16：00～16：10 神戸市 来年度事業紹介

< 休 憩 >

16：10～17：20

グループワーク（ディスカッション）と共有

【テーマ：市民宣言の実現に向けての啓発方法、生物多様性保全に向けたNGO・NPO、市民の実践・連携について】

17：20～17：25

アドバイザーからのコメント・アドバイス等

17：25～17：30

コーディネーターからのまとめ・事務局からの情報提供

■グループワーク：

A～Fの6つのグループで、テーマに基づき、生物多様性保全や市民宣言の普及をどう進めていくかについてディスカッションを行い、提案すること、自分達がこれから行うこと、について模造紙にまとめた。



■グループ発表

Aグループ

市民宣言などを表に出さずに、自然界に私たちが
出かけていって、自然からの恩恵や体験学習。
キャンプをやれば食事を作ります。食事を作るに
は薪がいります。ゴミもです。食やゴミの問題
を考える場にもなり、様々なつながりがあるとい
うことに自然と気付いていくのでは？

好きなことは長く続けられるので、楽しくなる工
夫が必要

NPO、行政、
企業と協力関係
をつくることも
体験とお互いに
繋がっているの
で、難しい言葉
を出さなくても
自然と意識の中
に生まれていく
のでは？



Bグループ

● どういうふうに伝えていくか

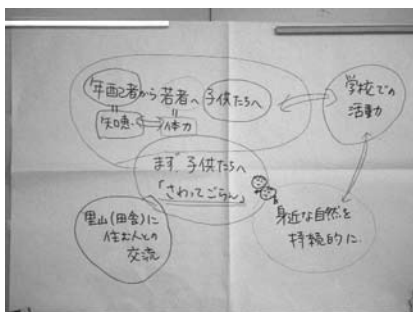
生物多様性という言葉にとらわれなくてもいいのでは？

みんなで自然に触れ合う

子供たちを連れて行くような自治会の話し合いをする

親が触らせてくれないことがあるので、学校も巻き込んで、体から学んでいくことが必要

田舎の人達との交流とか、とにかく子供たちに触れてもらうこと



Cグループ

都会に住む人と、田舎で農林水産業に携わっている人との意識の差が大きい

都会に住む人の中で、環境問題に取り組んでいる人と、全く関心がない人との意識の差が大きい

田舎で農林水産業に携わっている人に生物多様性の話しをしても理解されないの、こんな良いことがある(環境が守れるなど)というアプローチの仕方が必要

環境学習を地道にやっていく。学校で子供たちに教えることや、環境に関心のある方への地道な啓発を続けていく。

環境学習などのいろんな活動の場に来ていただいて、自然を体で体験する。これを続けることで個人個人の体に染みついていくことが大切である。



Dグループ

● 市民宣言をどうしていくか

「自然に触れる」というテーマをもった生態系ということでフィールド作りが大事

わざわざ特化しなくても、日常生活の中でこういうことができる環境、仕掛け作りが必要

ただ歩いているだけでは何があるかわからないので、インタープリターができる態度になることが課題

外で遊ぶ機会を多くすることが大事で、その時にただいるだけでなくガイドのできる近所のおじさんが必要

テレビのCMで流すとみんなに分かりやすくいいのでは？

日常的に出来るということが大事

伝える側が少しは知って、楽しんで関われることがインタープリターとして大事

学校でこういう

ことができる方

策があれば。学

校にはかならず

子供がいるし、

休み時間もある

ので、そこにイ

ンタープリター

として関わられ

ばと思う。



Eグループ

① ネットワークづくり

Eグループの中でも、ホームページやブログを立

ち上げられておられたりして、そこから広がりが出てくる（無限大の広がり）

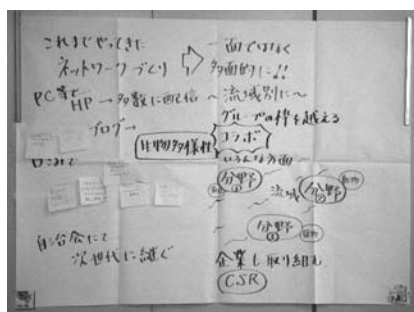
あくまでもアクセスをしてこないと広がりもたされないで、やはりクチコミ、出会い、場作りが大事ではないか？

それと、自治会等の地域の中でもそういうことを広めていって、人から人へのつながりが必要ではないか？

生物多様性という部分が言葉として出てきて、それは一体なんだという、分野を越えた集まりです。

縦割り、横割りを越えて行政も含めて、こういう場所で議論させていただいて、いろんな方々に枝分かれした中で情報を広めていく部分が大事ではないか？

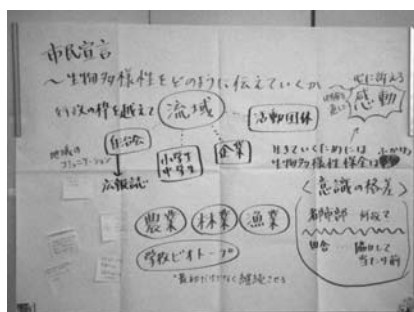
専門分野を越えていくことは大変なので、多種多様な方々の集まりの中でネットワーク作りをしていくことが大事ではないか？



②市民宣言をどうしていくか

市民宣言の内容を言っていくことは難しいので、生物多様性に特化したサークルとか技を伝えていく部分が大事ではないか？

キーポイントとしては、行政を越えた一つの川だとか、そういったところでの計画作り、人作りが今後広まりをみせていくと思うので、そこから市



民宣言を広めていく。

意識のズレがある方々へ根気強く広めていく。

今風の電子機器を使った広まりと、人から人へのつながりを多面的にやっていく。

Fグループ

身近な雑草を知る。

地域内でも山側と海側があるので、地域で交流して、お互い知らないことをお互いを知る

今の人は昔食べていたことを知らない、伝わっていないので、世代間交流が必要

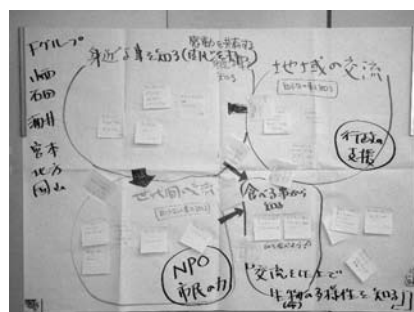
つまり、縦軸（世代間）と横軸（地域間）でお互い知らないことをお互いを知るところをまず行う。

地域間の方は、行政からの支援が必要。

世代間の方は、環境以外の様々なNPOとの交流や支援が必要。

とにかく、昔食べていたものを食べてみる。

交流をした上で、生物多様性を知っていく。生物多様性を言う前にお互いを知った上で、生物多様性を語っていく。





■コーディネーター、アドバイザーからのコメント 西谷氏

ネットワークづくりのための交流会は大事。先日、団体大集合や環境教育ミーティングという170人以上のイベントがあった。こういう会で発表し合って聞くことで参考になることはあるし、顔見知りになって、また手伝ってという話しにもなる。こういう会が広がると活動も広がると思う。

教育委員会や学校と上手く連携する仕組みができて、太っ腹な校長先生、教頭先生とかがもっと増えてきたらいいと思う。そのためには私たちが活動の

レベルを上げて質を高めていくが必要と思う。

どう伝えていくか。里山の人達との交流とかネットワークを広げていくことも、その通りだと思いました。

地域と街の人との交流は本当に大事。神戸も冬季湛水管理の田んぼの話がある。冬季湛水管理は人手ばかりかかって農家にとってみたらいいことがない。都会の人に農業や食のことをもう一つ考えてもらって、手伝いに行く、子どもたちの環境教育をやっていくこともある。

色々なセクターと協力関係をやっていくことが重要。発表にあったように、地域の交流とか。縦軸、横軸の話は分かりやすい。

私も含めて行政が何人かいたので皆さん遠慮されていたのかもしれないが、行政も勉強すべきという意見も出るかと思った。行政も市民活動についてもっと勉強すべきである。

橋本氏

世界的な問題として、都市（居住地域）と自然豊かな地域との格差、生き物に対する意識の格差、都市の生物多様性が非常にキーワードになっている。都市に住む人間が生き物に日常的に直接触れることがない。ゆえに生物多様性について思いを馳せることができない。こういう意見が多く出ていたが、まさにそれは世界的に見ても同じような問題になっている。

生き物に触れる楽しさを伝えることがとても大切という考え方が、Aグループの発表を初め色々出ていた。無理矢理に生物多様性の在り方などを世の中に伝えていってもやはり伝わらない。特に生物多様性というどうしても概念から入ってしまうので、伝えるにくい部分がある。広めるためには広める側が勉強しないとけないという、真摯な姿勢の意見もあった。伝え



る側がいかに噛み砕いて相手に伝えるかということもあるが、その前に実感が持てるように触れるとか、楽しむとか、見るとか、名前を覚えるとか、そういうところから始めるのが一番手取り早いことと思う。

自然に触れるということだが、子供たちや若いお父さんやお母さんを連れて行って、じゃあ自然に触れて下さいという時に、どうしたらいいの？という話があるという意見があった。自然に触れる作法も伝わっていないのかなと思った。かといって触れる作法を教えるというのは、ある一つの方法を押し付ける場合もある。例えば、ため池は危ないから入ったらダメだとか。間違えると大人の都合で作法を伝えてしまう場合があるので、ここは気を使うところだと感じた。生き物に触れることが、ほんとは日常だが、非日常と思われる。

日常で一番生き物に触れるのが「食」です。笑い話しでよく言われるのが、魚の切り身が海で泳いでいるの、と子どもが思っているということもあるらしい。本当に生き物の姿でスーパーにある訳ではない。生き物を見て、それを調理する現場があって、そして口に入るという一貫性。辿っていくと最終的には畑や田んぼなどにある訳ですが、田んぼの作物もほんとは野生のものを長年かけて品種改良し、食べやすく美味しいものにしてきたことを考えると、1000年、2000年という歴史の中で、食（生物）がつながっていく、つまり生物多様性が私たちの命につながることに関わってくると思う。

聞いているショックだったのは、生き物に触れていない人は、生物多様性に関係なくても生きていけると言われたこと。そういう人達にどうやって伝えていくかが今後の課題。

国は生物多様性の主流化と言っている。結局、生き物のことを日常に感じて、それを大切に思う、またありがたく頂いて命につなげて伝えていくことが主流化ではないかと思う。生き物関係ない、むしろ生き物なんていない方がいいと思っている人も世の中にはいるかもしれないが、そういう人達が、やっぱり生き物がいることは大切だとか、生き物に触れる機会があつて楽しいと思える環境を、生き物に触れる大切さなどを知っている側が少しずつでも伝えていくことが第一歩だと思う。

戸田氏：

生物多様性の保全は、是非実現していかなければなら

ない。そのためにも、個人の思いもあるが、こういう場を、間をあまり空けずに開催できればよい。環境創造協会が何らかの形でプラットフォーム作りはされていくと思うが、それでも我々が動かないと具体化していかないので、この後の交流会で次回、動いていこうという雰囲気を作って頂ければと思う。色々な人が集まれば、普段自分が思っていない意見が出て、別の視点に気が付いたりする。今日は環境系の人が多いが、できれば、まちづくり、福祉、国際的なことなど、我々の狭い中だけではすまないことですので、どんどん輪を広げていくべきだと思う。

